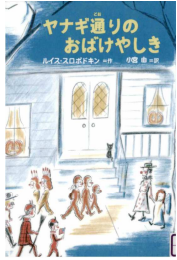


ヤナギ通りのおばけやしき



ルイス・スロボドキン／作
小宮由／訳
瑞雲舎
933/スル/

ぼくはめいたんてい なぞのかみきれをおえ！

マージョリー・W・シャーマット／ぶん
マーク・シーモント／え
小宮由／やく
大日本図書 933/シマ



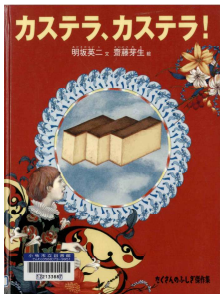
ていがくねんむ

低学年向け

「いたずらか、おかしか！」年に一度のハロウィンの夜、ヤナギ通りのこどもたちは仮装をして近所の家をたずねあるきます。だれもないはずのおばけやしきからでてきた主は、なんと「おかし」ではなく「いたずら」をえらびます。そんなことを言われたのは初めて。いったい何がおこるのでしょう？ヤナギ通りで起こった心温まるお話です。

「ぼくはめいたんてい」はアメリカの人気の子供文学シリーズです。ある日、家の前の階段に置かれていた、なぞのかみきれ。「うたい」と書かれたかみきれは、一体、だれが、いつ、なんの目的でそこに置いたものなのか？ネートは飼ひ犬のスラッジとともに、なぞときに挑みまします。本の最後には消えるメッセージの作り方も紹介されていて、めいたんてい気分も味わえます。

カステラ、カステラ！



明坂英二／文
齋藤芽生／絵
福音館書店
383

タヌキの土居くん

富安陽子／作
大島妙子／画
福音館書店
913/トヨ



ちゅうがくねんむ

中学年向け

カステラは好きですか？その昔、ポルトガルという遠い国から海をわたって日本に伝わったお菓子、カステラ。なぜ日本で「カステラ」と呼ばれるようになったのか、オープンのない日本でカステラを作るためにどのような工夫が重ねられたのか。カステラに魅せられた当時の人々の情熱が伝わってきます。カステラをめぐる歴史を楽しく知ることのできる一冊です。

ぶたいはやまなかちいがかっこうあるひきょうしついつびき舞台は山の中の小さな学校。ある日、教室に一匹のタヌキが現れます。それがクラスメートの土居くんだとわかると、みんなびっくり仰天。「なかよく、元気に、しょうじきに！」という学校の目標どおり、本当の自分の姿で登校することを決めた土居くん。そんな土居くんは、会計に立候補したり、タヌキたいそうや腹鼓で授業を盛り上げたり。ユーモアたっぷりて明るいお話です。

あおいの世界



花里真希／著
中島梨絵／装画
講談社
913/ハマ

銀杏堂

橘春香／作・絵
偕成社
913/タハ



こうがくねんむ

高学年向け

くそうへき空想癖があり、ちょっとクラスで浮いている小5のあおいが、カナダの学校へ転校することに。転校先ではふつうでいようとしますが、そもそも英語も少ししか話せないし…。日本でふつうなことがカナダではふつうではないこともたくさんある。新しいクラスメイトや近所の人との交流を通じて、「ふつうってなに？」、そんな疑問をもつようになります。そんなあおいの成長がカナダの秋冬の情景とともに描かれます。

ぎんなんどう たかだ銀杏堂は高田さんというおばあさんが営む、ちょっと変わったこつうやりはくだじきさるごくじょうきめ骨董屋。李白が大事にしていた陶器のお猿、極上の絹のように手になじむ「サバンナの逃げ水」、愛を伝える「文字虫」など、並んでいるのは、めずらしいものばかり。高田さんはそれらのモノ、一つひとつにまつわる物語を主人公のレンちゃんに語りまします。熱さや冷たさ、手触りまでもが伝わってくるような物語の数々に魅了されます。